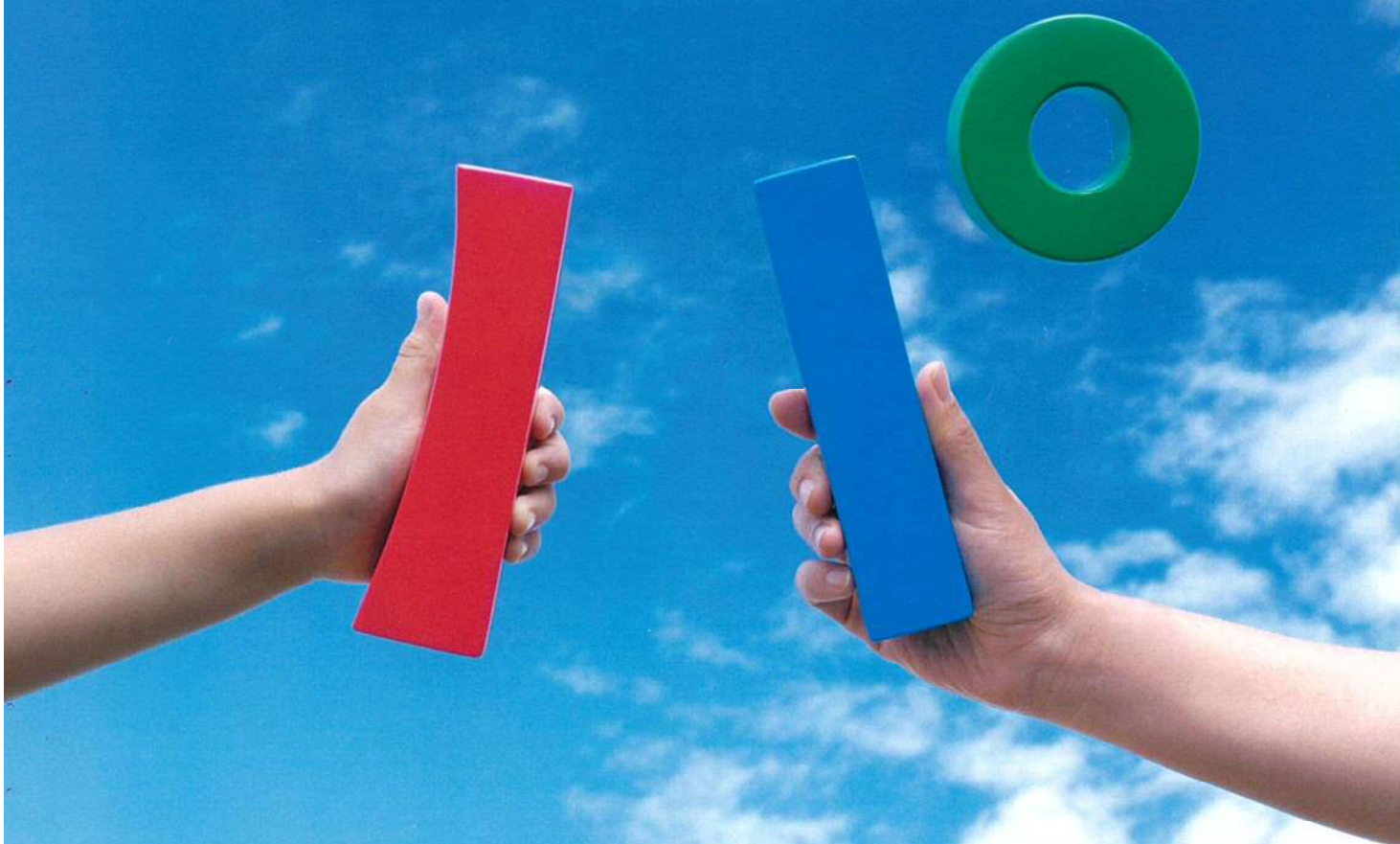


かわさきパラムーブメント

推進ビジョン | 第2期 (2018~2021)



QR Translator.



QRコードをスマートフォンで読み取ると、テキスト読み上げ機能を使って音声で情報を取得できます。切り込みはその近辺にQRコードがあることを触って認知いただくための仕様です。

誰もが自分らしく暮らし、 自己実現を目指せる地域づくり



日本列島を熱狂と感動の渦に巻き込んだ平昌オリンピック・パラリンピック冬季競技大会が閉幕し、次はいよいよ東京2020大会です。多くのアスリートが、大会出場に、あるいはより輝く色のメダル獲得を目指して、それぞれの目標に向かってたゆまぬ努力を続けられていることと思いますし、世界最高の舞台上、すべてのアスリートが躍動する姿を想像するだけで今から胸が躍ります。

また、大会開催期間中には、国内外から多くの人々が東京を訪れることでしょう。東京の隣に位置する本市としても、東京大会の成功に向けて、円滑な運営と最高のおもてなしができるよう、あらゆる面で惜しみなく協力してまいります。

さて、本市では東京2020大会を契機として、誰もが暮らしやすいまちづくりを進めていくために、「かわさきパラムーブメント」を平成28(2016)年度から推進しており、このたび第2期推進ビジョンを策定しました。この理念の浸透に向けた取り組みを中心にさまざまな事業を実施してきましたが、東京2020大会の開催まであと2年となった今、2020年を一つの通過点としてさらにその先を見据え、パラムーブメントのレガシーを未来に遺していく取り組みを強力に進めていく必要があります。

「かわさきパラムーブメント」を真の意味でのムーブメントとしていくためには、市民の皆さんとともに実際に行動することが欠かせません。

ぜひ、一緒に実践していきましょう。

川崎市長 **福田 紀彦**

Contents

- 02-03 メッセージ 〈かわさきパラムーブメントの目指すもの〉
- 04 かわさきパラムーブメントの理念
- 05 レガシーと第2期推進ビジョン
- 06-23 レガシー①～⑨

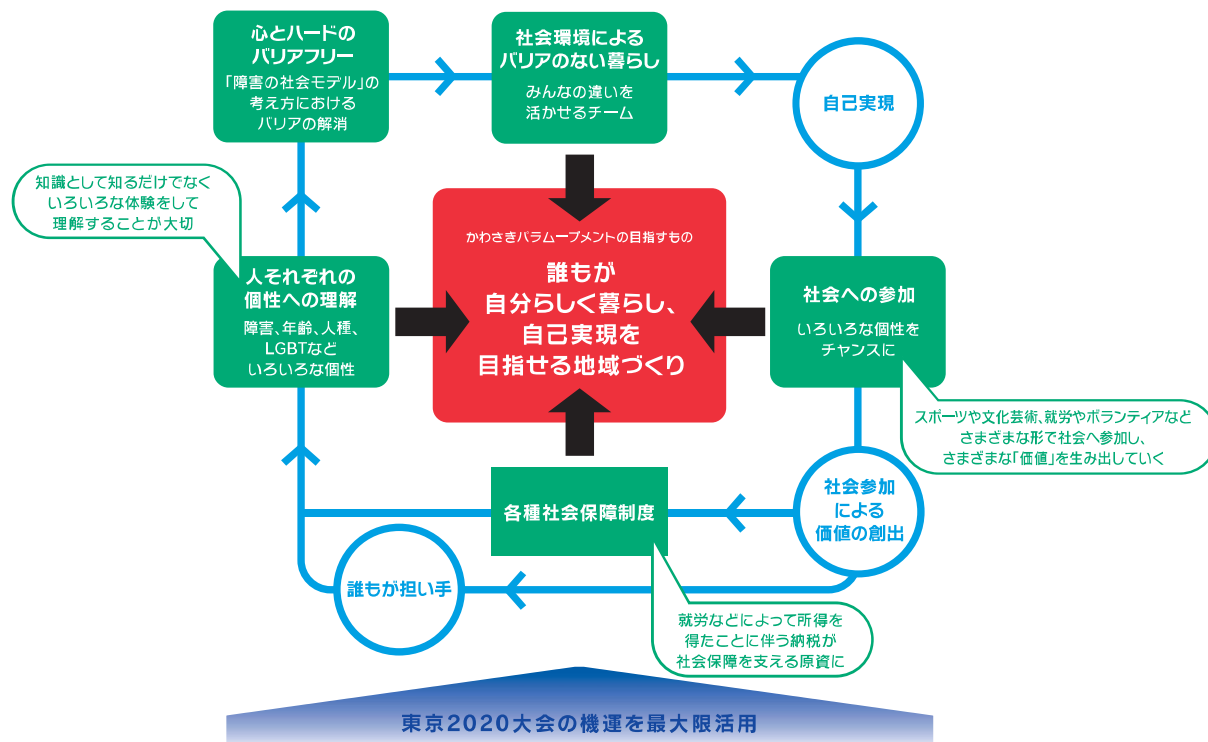
人々の意識や社会環境のバリアを取り除き 誰もが社会参加できる環境を創り出す

障害者をはじめ、マイノリティとされている人たちがいきいきと暮らす上での障壁は、個々が持つ意識や社会環境のバリアです。

パラリンピックを象徴する多様性(ダイバーシティ)と、社会的包摂(ソーシャル・インクルージョン)という観点に基づいて、バリアを取り除き、また、新しい技術をもって課題に取り組みながら、誰もが社会の一員として参加できる環境を創り出すことが、「かわさきパラ

ムーブメント」の理念です。

具体的には、下の図のように「人それぞれの個性への理解」が「心とハードのバリアフリー」につながり、「社会環境によるバリアのない暮らし」が自己実現を可能にし、「社会への参加」があたりまえになり、そのことで新しい価値が創出されていく…この循環が「かわさきパラムーブメント」が目指す、すべての人が活躍できるまちを実現すると考えます。



かわさきパラムーブメントの取り組みで 未来へ遺していく9つのレガシー

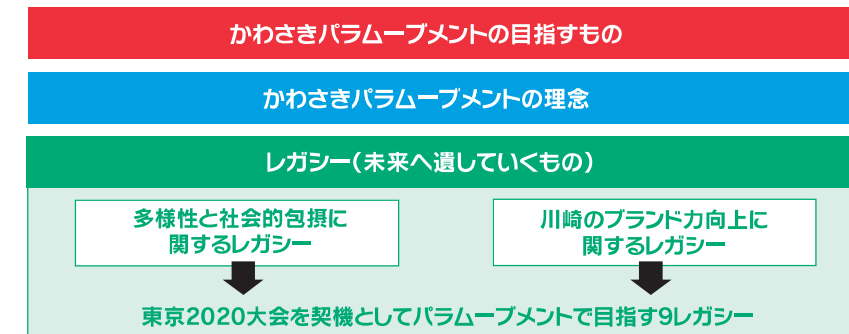
多様性と社会的包摂に関するレガシー

- ①多様性を尊重する社会をつくる子どもを育むまち
- ②心理的バリアが解消されたまち～心のバリアフリー～
- ③社会的バリアが解消されたまち～ユニバーサルなまち～
- ④誰もがスポーツ・運動に親しんでいるまち
- ⑤誰もが文化芸術に親しんでいるまち
- ⑥多様な主体が地域づくりに貢献しているまち
- ⑦誰もが職業等を通じて社会参加できる環境

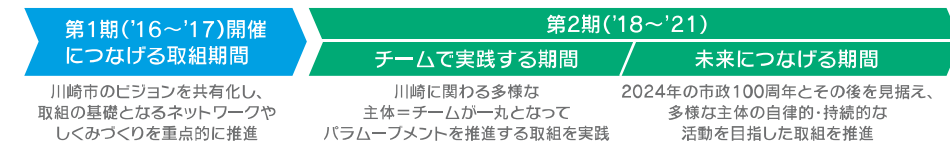
川崎のブランド力向上に関するレガシー

- ⑧来訪者が「行って良かった」と思えるまち
- ⑨知名度・プレゼンス*が高まった川崎

第2期推進ビジョン体系イメージ



第2期推進ビジョン取組期間





ひとつ先に
やさしさをを見つけよう

レガシー① 多様性を尊重する社会をつくる子どもを育むまち

多様性のある社会を実現するには、相手を受け入れる気持ちが基本となります。人はみんな、人としての価値は同じであり平等だからです。

特に未来の担い手として、みんなが参加できる社会を当たり前ものにしていく子どもたちは、義務教育が終わるまでに、障害や人種、LGBTなどいわゆる社会的マイノリティのことを正しく理解し、お互いの個性を尊重し合っていること、そして、お互いを支え合う行動力が身につけていることが望まれます。

一方で、子どもがこれらに対して理解を深められるように、すでに実践している姿を見せることが大人の役割と言えます。

困っている人に気づくのは、一歩先に対する想像力と心配りがあるからです。自然に手を差し伸べられる行動力が備わっているのは、豊かな心を持っていればこそ。

多様性を理解し、心が豊かな子どもがやがて親になったとき、自ら子育てをするという循環が、このレガシーが実現する成熟された社会といえるでしょう。

NPO法人 高津総合型スポーツクラブSELF

子どもから高齢者、障害のあるなしにかかわらず、インクルーシブな発想で、“心を豊かにする地域の遊び場”として、スポーツを中心にプログラムを提供しています。



福祉体験

川崎市では福祉体験などを通して多様性について考える学習を全ての学校で取り組んでいます。福祉体験では、「車いす体験」「視覚障害者疑似体験」「高齢者疑似体験」などを実際に子どもたちが体験することにより、ともに生きるための相互理解を深めています(写真は南大師中学校での福祉体験)。



とんもり谷戸の田植え

宮前区初山、生田緑地の南にあるとんもり谷戸で毎年行われる田植え。多くの子どもたちも参加して、代掻きから早苗の植え付け、収穫まで貴重な経験の場となっています。



私のもあなたのも、
ふたつとない個性
その価値に素直になろう

レガシー② 心理的バリアが解消されたまち～心のバリアフリー～

人には、障害のあるなしや加齢、人種や性的指向などによって心や体にさまざまな違いがあります。このことが差別意識とまではいかないまでも、知らず知らずのうちに「自分とは違うんだ」という「心のバリア」をつくってしまいます。

心のバリアを取り除くには、相手の個性はもちろん自分の個性も認め、尊重することが大切です。「自分は社

会の中でかけがえのない存在だ」と確信することです。自分という個性を価値として認め、素直になれたとき、殻を破った自らの声がコミュニケーションを生みだします。

そして、相手のかかえる困難や痛みを想像し、共感する力を培うことで、お互いの理解を深めるコミュニケーション力が高まり、それぞれの個性を生かし合う「心のバリアフリー」というレガシーが実現します。

社会福祉法人 はぐるまの会 稗原農園

障害のある人が自信を持って暮らしていくことを目指す「はぐるまの会」が、新しい福祉施設のあり方としての都市型福祉農園を運営しています。それが「はぐるま稗原農園」で、無農薬野菜やハーブなどの栽培に取り組んでいます。また、近隣地域の協力者を始めとした「はぐるま稗原農園サポーターズ」も農業活動全般を応援しています。



はぐるま稗原農園収穫祭

毎年、秋には地域の人たちと一緒に野菜を収穫し、一流シェフによる採りたて野菜の絶品料理などを楽しめます。歌やゲームも交え、はぐるま稗原農園を舞台にした収穫祭で交流を深めています。



心のバリアフリー

困っている人を助ける心遣いと行動力。助けてほしいときには声に出す勇気と行動力。自他の個性を尊重し、相互のコミュニケーションをとることが心のバリアフリーを実現します。



I can! We can!
すべての人にまちがやさしい

レガシー③ 社会的バリアが解消されたまち～ユニバーサルなまち～

「かわさきパラムーブメント」を実現するには、誰もが平等であると同時に、あらゆる機会が公平に提供される環境がベースになります。

仕事や、スポーツ観戦、観劇などに出かけるとき、また日常生活の中でも、行動の妨げになる物理的なバリアや、情報を手に入れる際のバリアを取り除くことが求められます。

川崎市では誰もが利用しやすい公共交通環境や建

物の設計、多言語や視覚・聴覚障害に配慮した案内表示など、ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりを進めています。また、安全で、快適に使えるものをつくり出していくことで、みんなにやさしい生活を提供しています。

すべての人が心身の個性、言語などの違いを意識することなく、あらゆることに不自由なくアクセスできる。そんな社会こそが、川崎に住まう人たちをアクティブにすることができるでしょう。

バリアフリー対応の川崎駅北口

2018年2月に開設された川崎駅北口のように新しく整備される場所は、スロープや視覚障害者誘導用ブロックなどバリアフリー対応にできる限りの配慮をしています。脳脊髄炎の発症から車いすの生活になったSakura Millarさん、ミュージシャンとしての行動範囲も広がったそうです。



スロープ

車いすや、ベビーカーなどスムーズに移動できるスロープは、誰もが行動しやすい環境をつくれます(写真は東急田園都市線溝の口駅からJR南武線武蔵溝ノ口駅に向かうスロープ)。



UDタクシー

足腰の弱い高齢者、ベビーカー利用の親子連れなど誰もが安全・安心で快適に利用できる“ユニバーサルデザインタクシー”。車いす使用者は車いすに乗ったまま乗降できます。



観戦！ 実践！
心身にエネルギーチャージ！

レガシー④ 誰もがスポーツ・運動に親しんでいるまち

スポーツは、健康や体力づくりはもちろん、チームワークや自分と向き合う気持ちなど心を強くする働きもあります。勝ち負けにとどまらない、人として成長するための大切な糧を与えてくれます。スポーツをする側と観る側の心が一瞬にしてつながるのも、スポーツの醍醐味です。
オリンピック・パラリンピックをはじめ、スポーツの世界

で、人間が持つ可能性の極限に挑戦する姿は、多くの人に夢と感動を与えると同時に、垣根のないボーダーレスな社会の大切さに気づかせてくれます。
「言葉を越えたコミュニケーション」とも言えるスポーツを、誰もが気軽に楽しむことができるまち — それはみんなが参加できる社会を育てている証なのです。

SELFハートクラブ

NPO法人高津総合型スポーツクラブ SELFの障害者参加プログラム「ハートクラブ」では、オープンエアな(開かれた)環境のもと、スポーツを中心に気軽に楽しむプログラムを展開。なかでもポッチャは、重度脳性麻痺者、四肢重度機能障害者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。



多摩川サイクリングコース

多摩川の河川敷に沿って延びるサイクリングやジョギングのコースでは、障害のあるなしにかかわらず、誰もが軽やかに運動を楽しんでいる風景が見られます。



等々力競技場の車いす観戦席

誰もが気軽にスポーツ観戦を楽しめるためにハード面を充実。等々力競技場では、車いすのまま観戦できるスペースを確保しています。



聴いて、観て、感性を刺激！
見える世界が違ってくる

レガシー⑤ 誰もが文化芸術に親しんでいるまち

絵画、写真などのアート作品、音楽、演劇…。このような文化芸術に触れることは、創造性や感受性が豊かになり、満ち足りた気持ちにもなります。

また、障害のあるなしにかかわらず、文化芸術を通して自分を表現することは、自己実現のきっかけになるでしょう。スポーツと同様、文化芸術も「言葉を越えたコミュニケーション」であり、多様性を受け入れた、みんな

が参加できる社会を育む大切な要素です。

小さいころから身近に文化芸術に親しめる環境なら、さまざまな表現を通じて、固定概念にとらわれない寛容さを培うことができます。「人と違うことを最大の魅力」ととらえ、お互いに尊重しあえるまちとして成熟していくでしょう。クリエイティブで、いつもワクワク感があふれるまち、それが川崎なのです。

川崎授産学園 音楽交流サロン「奏」

障害者のための複合施設として国際障害者年(1981年)に開設。中でも、音楽交流サロン「奏」は、すべての人の社会参加と自己実現を目指し、市民交流で合唱や表現活動を発信。それぞれの個性を発揮しあって、参加者みんなが輝いています。



デフ・パペットシアター・ひとみ

文化と福祉を同じ基盤でとらえ、日本で唯一、ろう者と聴者が協同で公演する人形劇団。名前のDEAFは「聞こえない」の意味。障害のあるなしにかかわらず「見て、感じて、想像力を引き出す」人形劇です。



パラアート

市内在住の星拓実さんの「猫百景」。星さんは軽度な発達障害がある中、幼少のころから絵を描き続けています。色彩、デザイン、豊かな表現力の「猫百景」は2013年に学生美術の祭典「学展」で準グランプリの「特別奨励賞」を受賞。



そこに住まう人誰もが、
まちの応援隊！

レガシー⑥ 多様な主体が地域づくりに貢献しているまち

少子高齢化が進む中で、未来に向かっていつまでもいきいきと暮らせるまちづくりを進めていくためには、ともに支え合う地域社会が不可欠です。

加齢や病気などで心身の自由が利かなくなる可能性は誰にでもあります。障害のあるなしにかかわらず、誰もが当事者として意識を持ち「支え合う」ことを、当たり前にしていかなければいけません。

まちの一員として、それぞれの持ち味を生かし、市民・事業者・団体・行政が力を合わせながら発展させていけば、きっと私たちにとってうれしい未来が引き寄せられるはずです。

多様な地域力が結集する力強い川崎をみんなで目指しましょう。

このまちが自分たちの誇りです。

グリーンバード川崎駅前チーム

「きれいな街は、人の心もきれいにする」をコンセプトに原宿表参道から誕生したゴミ拾いプロジェクト。自分たちが住むまちをもっときれいで、もっとカッコイイまちにしたいと世界中に広がっています。川崎市内でも6か所で発足。川崎駅前チームは毎月第2第4土曜日に活動しています。



ハッピーサークル「街ゼミ」

川崎駅西口の商店主有志で組織する団体「ハッピーサークル」。商店街の垣根を越え、地元の人たちとの交流を深める地域コミュニティとしてさまざまな取り組みを開催。各商店主が講師を務めるのも魅力になっています。



かわさき色輪っかつなぎ

南北に細長く地域の個性が異なる川崎で、市民の一体感と川崎愛を育もうと、2014年に始まりました。川崎の資源に由来した20色の「かわさき折り紙」の短冊を色輪っかにしてつなぎ、多摩川河川敷で公開。見ごたえあるアートとしても認知度が高まっています。



仕事にも、趣味にも、
アクティブになれる自分を発見

レガシー⑦ 誰もが職業等を通じて社会参加できる環境

「社会に参加して、自分の個性を生かしながらいきいきと暮らしたい」と、誰もが自己実現への思いを持っています。なかでも、障害のある人や子育て中の人などが社会に出て活躍するためには、バリアを取り除き、場づくりをしていくことが求められています。

まずは、社会的マイノリティに関する理解が深まるよう推進することが大切です。そのことが雇用に積極的

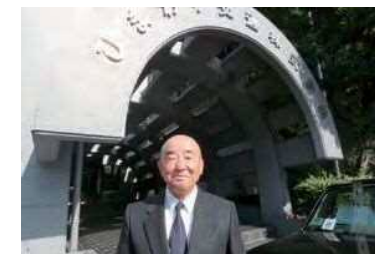
な企業を増やし、就労マッチングを充実させ、誰もが働きやすい環境が構築されることにつながります。

また、仕事だけでなく、趣味や学習活動を実践できる環境を整えていくことが、すべての人に開かれたまちと言えます。

誰にとっても「最幸のまち かわさき」として、次世代につないでいきましょう。

日本理化学工業株式会社

“皆働社会”を目指し、昭和35年から知的障害者の雇用をいち早く取り入れたチョコレート製造会社。現在の全従業員に占める障害者の割合は約70%以上となり、それぞれが理解力にあった現場を担当し、さらに全社で成長支援も行っています。



ひまわり交通株式会社

8人の障害のある人が、タクシードライバーとして活躍。働く意欲さえあれば、あきらめることはないという共生社会を実証しています。「かながわ障害者雇用優良企業」に認定。



就労体験プロジェクト

川崎市とNPO法人ピープルデザイン研究所の協働事業により市内各所にて、身体・精神・知的障害者やひきこもり、ホームレスの方々に社会参画の機会を促す「就労体験プロジェクト」を展開。これまでに述べ174企画を実施し、1,803人が参加しています。



レガシー⑧ 来訪者が「行って良かった」と思えるまち

市民みんながコンシェルジュ！
「行って良かったまち No.1 かわさき」

①川崎市立日本民家園(生田緑地)

自然豊かな生田緑地の一角にある野外博物館。200～300年前の古民家や生活道具が日本の暮らしを語っています。園内では古民家の保存とお客様のおもてなしのためボランティアグループ「炉端の会」が囲炉裏で火焚きを毎日行っています。

②川崎大師

「平間寺」が正式名称、真言宗智山派の大本山です。厄除け大師として、初詣の参拝者数は毎年300万人を超え、全国トップ3に入ります。

③工場夜景

京浜工業地帯には、製鉄所をはじめ数多くの工場が集まっており、昼の姿からは想像できない夜景の美しさが、今や川崎を象徴する観光スポットの一つになっています。

川崎市は、東京2020大会開催都市東京に最も近い都市の一つです。空の玄関口である羽田空港も近く、国内外から多くの人々が川崎を訪れる機会が増えていくことが予想されます。

「かわさきパラムーブメント」の目指すところは、「ここに住んで良かった」と、すべての市民が心豊かに暮らせることです。さらに、訪れた人たちが川崎の魅力に触れ、まちのファンが増えていくことで後世にも継がれていくまちになります。

「行って良かった」と、訪れた人たちの記憶に刻まれるまちになるように、それぞれが感じている、川崎の魅力を発信していきましょう。私たちひとりひとりが「かわさきのコンシェルジュ」なのです。



①



②

レガシー⑨ 知名度・プレゼンスが高まった川崎

日本中、世界中が注目!
「革新するまち かわさき」

①キング スカイフロント

川崎臨海部の殿町地区にある国際戦略拠点。健康や医療、福祉分野で最先端の研究開発が行われると同時に、新たな産業を創出するオープンイノベーションの場がここにあります。

②ブレイキン(ブレイクダンス)

川崎は、国内外から「ブレイキンの聖地」として知られており、チームによるブレイクダンスの世界的な大会で前人未達の3連覇(2015~2017年)を達成したThe Floorriorzをはじめ、川崎にゆかりのあるB-boy、B-girlが次々と活躍しています。

医薬品や医療機器の革新的な開発や先端技術は、川崎が誇る分野であり、世界的な課題解決に貢献するべく、日々躍進しています。

優れた音響空間の「ミュージア川崎シンフォニーホール」では、クラシックをはじめ、バラエティに富んだコンサートが繰り広げられ、市民にとって音楽が身近な存在になっています。

さらに、トップレベルの選手が活躍するサッカーの「川崎フロンターレ」や、バスケットボールの「川崎ブレイブサンダース」は、市民が一丸となって応援するスポーツチームで、未来を担う子どもたちにとって、夢と自己実現へ向かう勇気を与えてくれる存在です。

川崎では、こうしてさまざまなカルチャーが交錯し、多様性を受け入れる川崎らしさを育んでいます。豊かな自然環境、交通や物流の利便性に加え、とりどりの情熱が紡ぐまちは、唯一無二のまちとして、さらに国内外の注目を集めていくことでしょう。

めざせ! やさしさ日本代表!

みんなの違いを活かせるチーム。

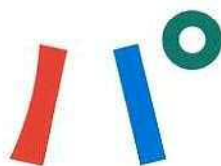
障がい、年齢、人種やLGBT

いろんな個性をチャンスにしよう。

川崎らしく、力強く。

未来を変えていく力は

私たちの中にある。



かわさきパラムーブメント

「かわさきパラムーブメント」とは、東京2020オリンピック・パラリンピック大会の開催を機に、すべての人が活躍できる社会を構築するために、川崎市と市民の皆さんが一緒に取り組む運動です。



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市